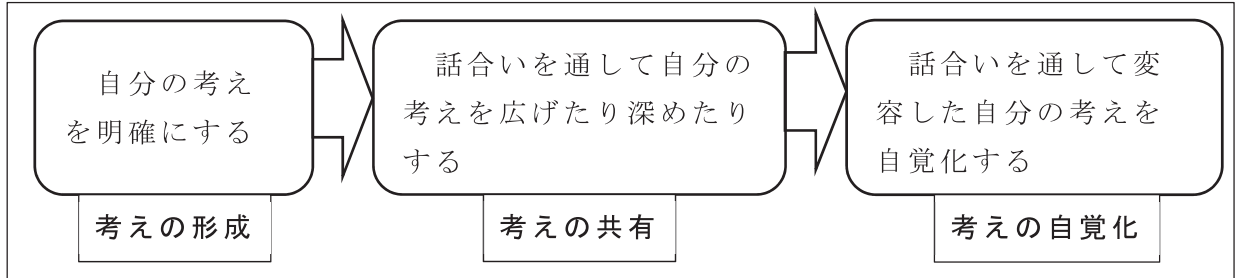


II 研究の実際

1 【視点1】「対話的な学び」に重点を置いた国語科授業づくり

自分の考えを互いに分かりやすく伝え合うためには、自分の考えを明確にする「**考えの形成**」、話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりする「**考えの共有**」、話し合いを通して変容した自分の考えを自覚化する「**考えの自覚化**」の三つの過程（資料3）を踏む必要がある。



【資料3 互いに分かりやすく伝え合うための過程】

「**考えの形成**」では、何について、自分の考えをもつのかを意識させ、理由を明確にもたせる必要がある。また、「**考えの共有**」では、自分の考えと話し合いの様子を可視化し、それを基に自分の考えを再考させる必要がある。さらに、「**考えの自覚化**」では、振り返る視点を与え、自分の考えの変容を自覚化させる時間を確保する必要がある。

そこで、単元を通して取り組むことと、1単位時間で取り組むことを次のように整理した。

(1) 単元を通じた取組

ア 課題解決の過程となる言語活動

自分の考えの形成を図るために、課題解決の過程となる言語活動を設定し、子供が単元を通して「何を学ぶか」、目的意識をもって学習できるようにしている。

言語活動を設定する際には、育成を目指す資質・能力（指導事項）に即した単元のねらいを提示し、学習の見通しがもてるようにする。その際、資料4のようにモデルを提示することで、子供が「何を学ぶか」、より具体的にイメージできるようになる。

第3学年 まとまりをとらえて読み、感想を話そう 「言葉で遊ぼう」
指導事項 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと
<p>B: グッドモデル A: エラーモデル</p> <p>Aは文章を読んで理解したことが書かれていない。 Bは文章を読んで理解したことが書かれている。</p>
【資料4 モデルの提示】